

学校保健

1 学校保健とグローバル社会を生きる資質・能力の育成

(1) 学校保健における保健教育

「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」（2023）において報告されている、養護教諭に求められる職務の範囲は、表1のように整理されている。この枠組みをもとに考えるのであれば、このうち、子どもたちの資質・能力の育成に大きくかかわる分野は「保健教育」と「健康相談及び保健指導」の枠組み内にある「健康相談等を踏まえた保健指導」であろう（ここでは以下、まとめて「保健教育」として扱う）。

保健教育は、予防的行動も含め、健康の保持増進のために適切な保健行動を身につける、及び、健康を支える社会づくりに参画することが目的である。そして保健教育を含む健康教育は、教科のみならず、教育活動のさまざまな場面で教育的アプローチをし、子どもたちの健康の保持増進についての考え方や健康行動へ影響を与え、生涯にわたる望ましい健康観の育成に寄与していくことを目指していく。

表1 養護教諭に求められる職務の範囲

- ◇保健管理
 - ・救急処置、健康診断、健康観察
 - ・疾病の管理・予防、学校環境衛生管理
- ◇保健教育
 - ・各教科等における指導への参画
- ◇健康相談及び保健指導
 - ・心身の健康課題に関する児童生徒等への健康相談
 - ・健康相談等を踏まえた保健指導
- ◇保健室経営
- ◇保健組織活動

(2) 保健教育を含む健康教育とグローバルコンピテンスとの関係性

OECDによるグローバル・コンピテンスは、次のように定義されている。

地域的、地球規模的、異文化的な問題を検討し、他者の視点や世界観を理解し尊重し、異なる文化の人々と適切で効果的なコミュニケーションを行い、共同体の幸福と持続可能な発展のために行動する能力のことである。

この「共同体の幸福と持続可能な発展のために行動する能力」とは、健康教育によって育む力そのものではないだろうか。「共同体の幸福と持続可能な発展」は、個人及び集団のウェルビーイングであり、それにつながる、上述の「健康の保持増進のために適切な保健行動を身につける、及び健康を支える社会づくりに参画する」力を健康教育は養う。したがって、健康教育は、大いにグローバル・コンピテンスを伸ばす教育活動になる可能性をもち、またグローバル・コンピテンスの育成を意識することで、健康教育の効果はより大きくなるのではないかと考える。その理由を以下に付け加える。

表3 グローバル・コンピテンスと健康教育の関連

| グローバル・コンピテンス | | 健康教育の流れ |
|--------------|----------------------|----------------------------|
| 検討 | 地域的、地球規模的、異文化的な問題を検討 | 地域的、地球規模的、異文化的な健康課題を検討 |
| 理解・認識 | 他者の視点や世界観を理解し、認め | 他者や異文化社会等での取り組み、考え方を理解し、認め |

| | | |
|----|------------------------------|---|
| 交流 | 異なる文化の人々と適切で効果的なコミュニケーションを行い | 他者や異文化社会の人々と適切で効果的なコミュニケーションを行い |
| 行動 | 共同体の幸福と持続可能な発展のために行動する | <u>自分及び自分が含まれるコミュニティのウェルビーイングのために保健行動や環境を創造する</u> |

表3はグローバル・コンピテンスの定義に則して健康教育の流れを考えてみたものである。このように全く違和感なく当てはめることができる。そして、個人の生活に焦点をあてることから問題提起をするのではなく、このようにグローバル・コンピテンスの育成を意識し、「地域的、地球規模的」な問題や異文化での取り組みや考え方などに見地を広げて健康課題を考えることは、健康教育のアプローチの可能性が広がり、保健行動の変容や獲得においても大いに役立つのではないかと考える。さらに言うと、自分や身の回りの狭い範囲で考えるよりも、保健行動実現のために重要な動機付けや行動選択において、幅や質が豊かになり、よりよいヘルスプロモーションや保健行動の獲得につながるのではないだろうか。

また、「プラネタリーヘルス」という考え方が盛んに取り上げられ、地球規模での健康課題への取り組みが喫緊の課題となっている今、グローバル・コンピテンスの育成を積極的に取り入れた健康教育が、むしろこれからは必要となってくるのではないだろうかと考える。個人の生活や健康と、個人を取り巻く環境や健康課題を互いにリンクさせながら健康教育を盛んにしていくことが、これからの教育活動において重要なのではないだろうか。

2 報告内容

(1) 生徒保健委員会活動「ヘルシーイベント実施への道～フードドライブプロジェクト～」

①課題の設定・背景・ねらい

本校の生徒保健委員会では、毎年「ヘルシーイベント」と称し、全校生徒に向けて働きかける機会を設けている。テーマや内容、実施方法は委員生徒の話し合いで決定する。これまでは講師を招いてプチヨガ教室、運動部にオススのベストパフォーマンスを引き出す体幹トレーニングなどを企画・運営してきた。昨年度は本学SDGs推進研究所より「フードドライブをやりませんか」という打診を受け、フードドライブをこの年のヘルシーイベントとし、保健委員会で取り組んだ。初めてフードドライブを実施した昨年度を振り返ると、委員生徒は自分たちの呼びかけで食料品がたくさん集まってくる様子に、楽しみながら取り組んでいたが、フードドライブという取り組みの意義もよく分からず、とにかく「家で余っている食料品を集める」という活動に終始したように思う。

今年度当初の委員会で、今年もフードドライブをやろうと決まった。そこで2年目の今年は一歩踏み込んで、「なぜフードドライブをするのか」「フードドライブをとおして全校生徒にメッセージを伝えよう。そのメッセージとはなにか」を考えてプロモーション活動をしていくことを目標にすることにした。

そもそも保健委員会のヘルシーイベント実施の目的には、全校生徒に向けて健康の保持増進について啓発したり、働きかけをしたりして、委員会生徒をとおして健康教育をしかけるという意義がある。同時に、委員生徒が健康課題について理解を深め、健康メッセージを発信する企画を実施する中で、OECDが定義するところの「生徒エージェンシー」を発揮していく機会となると考えている。

今年度も引き続きテーマに選んだフードドライブは、欧米を中心に世界各地で行われている。そのため、このテーマについて視野を広げて調べたり考えたりしていくことは、グローバル・コンピテンスの育成に寄与できると考えた。異学年が交流しながら、全校に伝えたい健康メッセー

ジはなにかを生み出すことをとおして、それぞれが教科等で身につけてきた力（グローバル・コンピテンスの要素）を持ちより、互いにさらに伸ばし合い、小さいながら健康を支える社会づくりに参画する活動にすることができればと考えている。

②委員会のおかれる現状と試み

生徒委員会活動は自治活動である。しかしながら、近年学校現場では、委員会活動の時間の確保が難しくなっているという声をよく聞く。本校も多分に漏れず、自治活動はもとより、自主的・主体的な活動を行うことも容易ではない状況である。まず、委員会活動の時間は、月に1～2回で1回あたり25分間である。委員会活動の時間の後にさらに別の会合が入っていることも多く、延長することも難しい。そして、日常的に生徒がとにかく忙しい。体育大会や生徒祭と呼ばれる文化的行事、宿泊行事の準備にあたって役割がある生徒が多く、また日々取り組む課題も多い。のんびり休み時間を過ごせる日は一体どのくらいあるのだろうか。その中で、いかに生徒の主体的活動を維持するかは課題であり、今回はいくつかの工夫を試みることにした。詳細は、活動案及び公開研究会当日の実践報告で確認されたい。

3 参考文献

- ・「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」
- ・「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き